

非核平和友好都市宣言推進事業

令和元年度 広島平和記念式典

参加報告書



「二度と同じような悲劇を起こさないように」と、現在も保存されている原爆ドーム

上越市

発行に当たって

上越市は、戦後 50 年の節目に当たる平成 7 年に非核平和友好都市を宣言し、豊かな自然と長い歴史に培われた美しい郷土を末永く守るため、核兵器を廃絶し、世界の恒久平和に向けてたゆみない努力を続けることを誓いました。

以来、この宣言の趣旨を普及・啓発するため、毎年 8 月 6 日に行われる広島平和記念式典への参加のほか、平和展の開催や戦争体験談集の発行など様々な事業に取り組んでいます。

今年度も市内中学校の協力のもと、中学生代表 8 人が広島平和記念式典に参列しました。

この冊子は、広島平和記念式典に参加し、犠牲者に鎮魂の祈りを捧げ、平和の尊さを直に体験されたみなさんの現地での活動内容や感じたこと、伝えたいことなどまとめたものです。

本冊子が平和について考える一助となれば幸いです。

令和 2 年 1 月

上 越 市



目 次

事業の日程	1
活動レポート	
・事前学習会	2
・出発式	3
・呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム） 頸 城 中 学 校 3年 渡 邊 結 真	4
・原爆の子の像（献鶴） 直 江 津 東 中 学 校 3年 永 田 睦 月	5
・平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式） 雄 志 中 学 校 3年 高 橋 倫 太 郎	6
・献花・献水慰霊式 名 立 中 学 校 3年 渡 邊 蒼 彩	7
・広島平和記念公園 板 倉 中 学 校 3年 佐 川 大 成	8
・広島平和記念資料館 安 塚 中 学 校 3年 横 尾 純	9
・袋町小学校平和資料館 牧 中 学 校 1年 岩 崎 瑛 斗	10
・灯ろう流し 城 北 中 学 校 2年 松 井 彪	11
・巖島神社	12
・各学校での報告会	13～14
・学び愛フェスタでの報告会	15
非核平和友好都市宣言	16

事業の日程

【事前学習会】 令和元年7月20日（土）

時間 午後1時～3時30分

場所 高田図書館 第2会議室ほか

内容 自己紹介、事業説明、広島被爆体験者講話会聴講など

【出発式】 令和元年8月5日（月）

時間 午前6時～6時20分

場所 上越妙高駅 もてなしドーム

内容 参加者紹介、教育長激励のあいさつ、折り鶴の付託及び誓いの言葉

【派遣日程】

8月5日（月）

- ・移動（上越妙高駅～広島駅～呉駅）
- ・呉市海事歴史科学館 見学
- ・原爆の子の像 献鶴

8月6日（火）

- ・広島市原爆死没者慰霊式及び平和祈念式 参列
- ・献花・献水慰霊式 参列
- ・広島平和記念公園 見学
- ・袋町小学校平和資料館 見学
- ・灯ろう流し

8月7日（水）

- ・巖島 見学
- ・移動（広島駅～上越妙高駅）
- ・解散

【報告会】

- ・各学校（始業式、全校集会、学校便り等）
- ・「福祉・介護・健康フェア2019 in上越」 10月26日（土）
リージョンプラザ上越 資料展示
- ・「2019 学び愛フェスタ」 11月16日（土）
高田公園オーレンプラザ 報告会

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成:事務局

内 容	事前学習会 自己紹介 事業説明 広島被爆者体験講話会聴講ほか
実施日	令和元年7月20日(土) 午後1時～3時30分
場 所	高田図書館 第2会議室ほか

自己紹介で、参加に当たっての思いをのべました。事業説明の中では、自分たちで報告書を作成する場所を決めました。広島被爆体験者講話会では、講話会を聞いた感想を述べるなど、積極的に学ぶ姿勢が見られました。

『参加に当たっての思い』

- ・城北中学校 松井 彪さん
原爆のことを知らない人に広げ、平和な世の中になれるといいと思います。
- ・雄志中学校 高橋 倫太郎さん
広島のことを肌で感じて学び、みんなに伝えられるように頑張りたいと思います。
- ・直江津東中学校 永田 睦月さん
原爆については、教科書でしか学んだことがないので、現地でいろいろ学びたいと思います。
- ・安塚中学校 横尾 純さん
過去に原爆の被害があり、そして今があるので、今ある平和がいつまでも続くよう、このことを広めたいと思います。
- ・牧中学校 岩崎 瑛斗さん
広島原爆については、あまり知識がないので、現地で学び、世界平和について考えたいと思います。
- ・頸城中学校 渡邊 結真さん
原爆の怖さや平和の尊さをしっかりと学び、世界平和のことを考えていきたいです。
- ・板倉中学校 佐川 大成さん
現地でしか分からないことがあるので、しっかりと学び、家族や友達に伝えたいと思っています。
- ・名立中学校 渡邊 蒼彩さん
わたしの地域には「名立機雷爆発事件」があり、戦争と通じるものがあり、その思いを持ち現地で学びたいと思います。



参加への思いを発表する



報告書の担当をどこにするか話し合う

感じたこと、伝えたいこと

各自が、参加への思いを持ち自分の言葉で発表しました。
自ら現地で学び、考え、友人や家族へ伝えたいという思いが伝わりました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成:事務局

内 容	出発式 参加者紹介 教育長激励のあいさつ 折り鶴の付託及び誓いの言葉
実施日	令和元年8月5日(月) 午前6時～6時20分
場 所	上越妙高駅 もてなしドーム

早朝、派遣生徒たちは緊張した面持ちで出発に臨みました。



早朝にもかかわらず、学校関係者ほか多くの保護者が見送りに来ていました。

出発式では全中学校の生徒や平和展を訪れた人が作成した皆さんの思いのこもった折り鶴が、野澤教育長から派遣生徒の代表に付託されました。そして、派遣者を代表し、派遣に対する誓いの言葉をのべました。



「およそ14万人もの人が亡くなったという広島への原爆投下から74年が過ぎようとしています。私の祖父は昭和20年生まれなので、祖父の年齢を考えると当時を知る人は少なくなっていることが想像できます。

今回、私たち8人は上越市内中学生の代表としてこのような機会を与えていただきました。広島では、原爆により多くの方々が背負った苦しみや悲しみを、自分の目で見て感じて理解してきたいと思っています。

私の生まれ育った名立でも、昭和24年3月に機雷の爆発により63人の尊い命が奪われる事件がありました。

このことも含め、派遣から戻ったら、平和を守ることの大切さ・必要性を周りの人たちにしっかりと伝えられるよう、学んできたいと思います。

令和元年8月5日 名立中学校 渡邊 蒼彩

感じたこと、伝えたいこと

早朝にも関わらず、多くの保護者、関係者の皆様に参列いただき、出発式が行われました。派遣中学生は、それぞれの思いを持ち、広島へ出発しました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成: 頸城中学校 3年 渡邊 結真

場 所	呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム) 呉市
訪 問 日	令和元年8月5日(日曜日) 午後2時15分～4時40分
事前に調べたこと	呉市は明治以降、日本海軍の拠点施設、そして海軍工場として栄え、大戦期には艦艇の建造・修理などの重要施設となりました。空襲を何度も受け、出撃により多くの犠牲者を出すなど、戦争の悲劇を多く生み出しました。終戦後、平和産業港湾都市として復興、発展を遂げました。 戦争前後の呉市の様子や、造船などをはじめとした各種の科学技術について学んできたいと思います。

零式艦上戦闘機六二型(零戦)

当時の日本と言えば、零戦が有名でした。機体を軽量化したため翼が薄く「ノルナ」「サワルナ」と赤字で書かれています。



戦艦大和

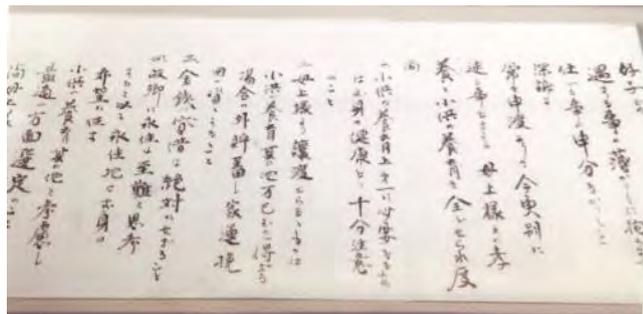


呉の海軍工廠を代表する「戦艦大和」。当時の技術の集大成とも言えるほど完成された艦であったといえます。

その技術は、現在の造船技術に受け継がれ、大型タンカーなどの技術にも使われています。

大和乗組員の葉書や特攻隊員の遺書

家族にあてた葉書や遺書が展示されていて、心が痛くなりました。



感じたこと、伝えたいこと

当時の技術がタンカーなどに活かされていると知った時は、戦争は良くないことだけど技術が発達することに貢献したことは・・・と思うと、とても複雑な気持ちになりました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成:直江津東中学校 3年 永田 睦月

場 所	原爆の子の像(献鶴) 広島平和記念公園内
訪 問 日	令和元年8月5日(月曜日) 午後6時30分～7時
事前に調べたこと	原爆の子の像は、2歳で被爆し、12歳で白血病によって亡くなった「佐々木禎子」さんがきっかけとなり設立されました。佐々木さんは「生きたい」との思いで、鶴を折り続けました。現地で、その状況を見て、学んできたいと思います。



原爆の子の像

広島平和記念公園内にある原爆の子の像は、原爆で亡くなったすべての子供たちのための慰霊碑です。設立のための募金活動には全国3000校余りの生徒をはじめとする、多くの国内外から支援がありました。そして、1958年5月5日に完成されました。

献鶴

各地から寄せられるたくさんの千羽鶴は、像の周りにある折り鶴台(ブース)に捧げられます。一般的な糸に通した千羽鶴の他にも、色によって文字や絵を表してあるものもありました。平和の意味がある折り鶴は、原爆の子の像以外にも様々な所に捧げられていました。



石碑

広島市内の小・中・高校有志によって設置されました。像の真下にある石碑には、「これはぼくらの叫びです。これは私たちの祈りです。世界に平和をきずくための」と刻まれている。



感じたこと、伝えたいこと

原爆により、多くの子供たちも犠牲になりました。私たちと同じくらいの人も多かったそうです。毎日、安全に暮らせていることを当たり前と思わず、感謝を忘れずに過ごしたいと思いました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成:雄志中学校 3年 高橋 倫太郎

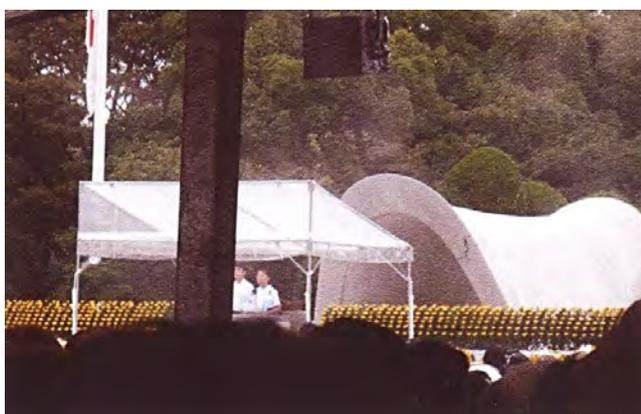
参加行事場所	平和記念式典(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式) 広島平和記念公園内
参加日	令和元年8月6日(火曜日) 午前8時~8時50分
事前に調べたこと	原爆死没者慰霊碑の前で、原爆が投下された日に原爆死没者の霊を慰め、世界の恒久平和を祈念するための式典で、広島の方々の平和への思いを学んできたいと思います。



当日は雨でしたが、子供から大人、そして外国からも本当に多くの方々が集まっていました。平和を願っている人がとても多くいることを実感することができました。



広島市長の平和宣言では、当時15歳だった少女の言葉、そしてインドの独立の例を取り上げ、「一人の力は小さくても、多くの人の力を集結することで、戦争を起こそうとする力を食い止めることができる。」と訴えていたのを聞き、小さなことでも自分にできることを実践していこうと思いました。



こども代表の平和の誓いでは、「国や文化や歴史、違いはたくさんあるけれど、大切なもの大切な人を想う気持ちは同じ。」という言葉が心に残りました。

それぞれの大切なものを守るために、戦争は絶対に起こしてはいけないと思いました。

感じたこと、伝えたいこと

式典では、広島の方々の平和への強い想いを感じることができました。この広島から世界に平和の輪が広がってほしいと思いました。そのためには、小さなことでも一人ひとりが意識していくことが大事だということをみんなに伝え、みんなで何ができるか考え続けていきたいと思っています。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成:名立中学校 3年 渡邊 蒼彩

参加行事場所	献花・献水慰霊式 広島平和記念公園内
参加日	令和元年8月6日(火曜日) 午前9時20分～10時20分
事前に調べたこと	広島被爆者援護会では、報復の連鎖を断ち切るため、被爆の事実を語り継ぎ、真実を伝える活動を行っています。この慰霊式には、毎年、上越市の派遣団が参列しています。どのような思いで行われているのか、現地で学んできたいと思います。

この会の流れ

- 1 開会のあいさつ
- 2 黙祷
- 3 開催者あいさつ
- 4 ご来賓あいさつ
- 5 平和への誓い

全国各地から訪れた小・中・高等学校、合計7校(代読含む)が“平和を守るためには”、“こんな悲劇を二度と繰り返さないようにするには”など、自分たちなりの平和への思いを述べていました。



派遣団の代表として平和への思いを述べる
雄志中学校 高橋倫太郎さん

- 6 平和祈念式展出席者報告
- 7 献花

この援護会に関係ある方や学校からたくさんの献花がありました。



献花で並べられた花たち

- 8 お供え
- 9 献水

原爆の被害にあった人たちは、水を求めて元安川へ飛び込んだことから、献水が行われています。



献水の様子
直江津東中学校 永田睦月さん

- 10 千羽鶴献納
- 11 お礼の言葉

後援会の方は、「この会は、原爆という悲劇を繰り返さないためでもあるが、顔と顔を合わせて話すことに意義がある」とおっしゃっていました。



毎年、原爆ドームをのぞむ対岸で慰霊式を行っている

感じたこと、伝えたいこと

この会に参加して、核廃絶と原爆が投下されたという事実を語り継いでいかなければいけない必要性をとても感じました。原爆投下から74年も経ち、当時のことを知る人が少なくなっているからこそ、私たちが率先して、次の世代に原爆の恐ろしさ、平和の大切さなどを伝えていきたいと思いました。また、人と人とで顔を合わせ、思いを伝える大切さも知れ、大変良い経験ができました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成:板倉中学校 3年 佐川 大成

場 所	広島平和記念公園
訪 問 日	令和元年8月6日(火曜日) 午前10時30分～11時30分
事前に調べたこと	ガイドの方に園内の慰霊碑やモニュメントについて、戦時中の話を交えながら説明していただくもので、園内に設立されている慰霊碑等について詳しく学んできたいと思います。

園内には、戦争関係の慰霊碑やモニュメントがたくさんありました。その中でも、特に以下の3つが印象に残りました。

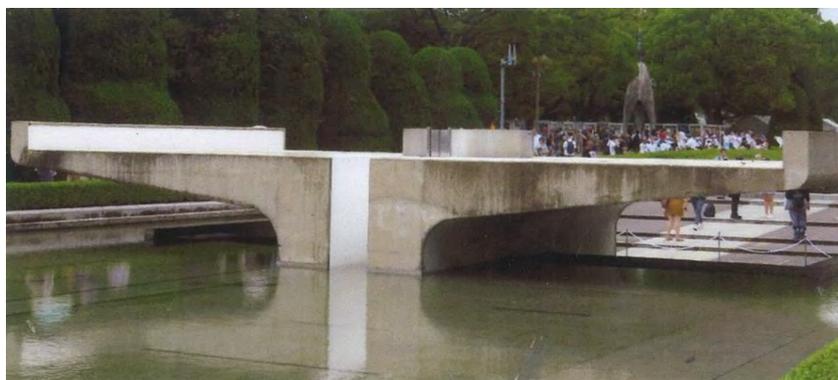
原爆ドーム

原爆による倒壊を免れた建物として、原爆の被害の悲惨さを伝えるため保存されています。ガイドの方の「過ちを繰り返さないため、負の遺産として残さなければいけない」という言葉にとっても共感しました。



動員学徒慰霊塔

戦時中、労働力として動員された全国の学徒を慰霊するためつくられました。自分がもし、犠牲者と同じ立場だったらと考えると恐怖を感じ、自分と近い年齢の子供が犠牲になったことに、深い悲しみを覚えました。



平和の灯

核兵器が存在する限り燃え続けるこの灯を消すことが、世界中の人々の共通の目標になってほしいと感じました。

感じたこと、伝えたいこと

園内の慰霊碑やそこに碑文として刻まれた願いや思い、原爆ドームなどの戦争の悲惨さを物語るものを見て、広島平和記念公園は、戦争の歴史を風化させず、伝達するため、大切な所だと思いました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成:安塚中学校 3年 横尾 純

場 所	広島平和記念資料館
訪 問 日	令和元年8月6日(火曜日) 午後1時20分～3時40分
事前に調べたこと	被爆者の遺品、被爆の惨状を表す写真や資料を展示し、「8月6日のヒロシマ」を紹介するとともに、被爆者や遺族の今日までの苦しみや悲しみを伝えるためにつくられました。大火傷を負った人の写真や遺体の写真、被爆者が描いた絵などが展示されています。原爆の被害の実相を学んできたいと思います。

原子爆弾が落とされる広島

右の写真は、原子爆弾が落とされる様子のプロジェクションマッピングです。

原爆が投下される前の広島市の様子は、今とあまり変化しているところはありません。変化しているところがないからこそ、この今保たれている平和を崩してはいけなかったと思います。

広島出身の方が、私たちに声を掛けてくれ、「原爆が落とされる前の写真を見ると余計に胸が痛くなる。」とおっしゃっていました。



原爆による影響

資料館には被爆に関する様々な物や写真などが展示されていました。

私の心に深く残っているのは、被爆した方々の写真です。大火災によって大火傷を負った方、亡くなってしまった方。また、直接的な被害ではなく、後に白血病等になってしまった方の写真がありました。たくさんの写真を見たからこそ原爆の威力の強さや怖さが分かりました。

未来へ、私ができること

これは地球平和監視時計の写真です。

広島への原爆投下から27,028日。最後の核実験からまだ174日しかたっていないことが分かります。1年以内に核実験が行われたのです。未来へ、私たちができることは「伝える」こと。原爆と核の恐ろしさを私たちが伝えなければいけません。



感じたこと、伝えたいこと

実際に原爆投下当時の写真や絵を見て、本当にたくさんの人が亡くなったこと、今も苦しんでいる人がいることが分かりました。すでに実際に戦争を体験した方は少なくなっています。なので、戦争を知らない私たちが自ら進んで学び、少しでも多くの人に戦争はなぜしてはいけないのか、たくさんの人の尊い命が失われるとはどういうことか伝えなければいけないと感じました。

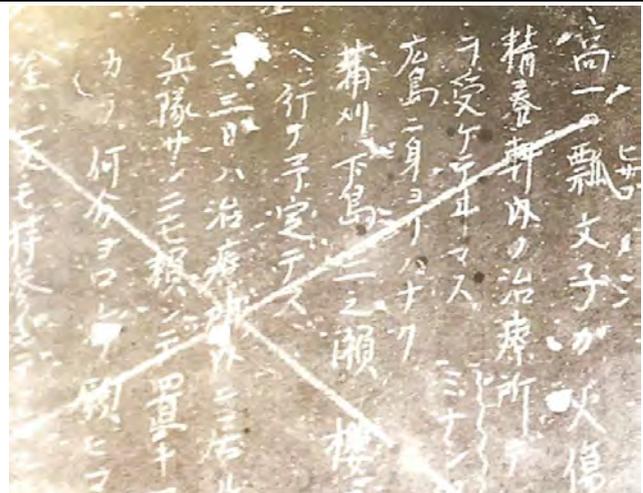
広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成: 牧中学校 1年 岩崎 瑛斗

場 所	袋町小学校平和資料館 袋町小学校敷地内
訪 問 日	令和元年8月6日(火曜日) 午後3時50分～4時30分
事前に調べたこと	平成14年に老朽化した校舎を建て替える際、被爆した西校舎の一部を保存して平和資料館としました。内壁に書かれた「伝言」の一部をはじめ、残された貴重な資料を展示し、被爆後の学校の様子も展示しています。 何があるのか、何を伝えているのか学んできたいと思います。

壁に残された大切な人への伝言

これは、被爆後の救護所として使われている時、チョークのかけらなどで家族や友人の安否や居場所などを壁などに書いた「伝言」を保存し、展示したものです。たくさんの方がここに「伝言」を書きました。「伝言」を見て、戦争はあってはいけないと感じることができました。



広島を救った15tの薬

写真に載っているジュノー博士は、被爆者のために約15tの医薬品を入手し、治療をした医師です。ジュノー博士がいなければ、もっと犠牲者が増えたと思います。どんな時でも、みんなで助け合うことが大切だと思いました。

平和を願う折り鶴

袋町小学校平和資料館には、たくさんの折り鶴が届けられていて、色々な人が平和を願っている、そう思えてうれしくなりました。日本に原爆が投下されて74年が経ちます。その74年で、人々の平和への想いは強くなっていると感じました。



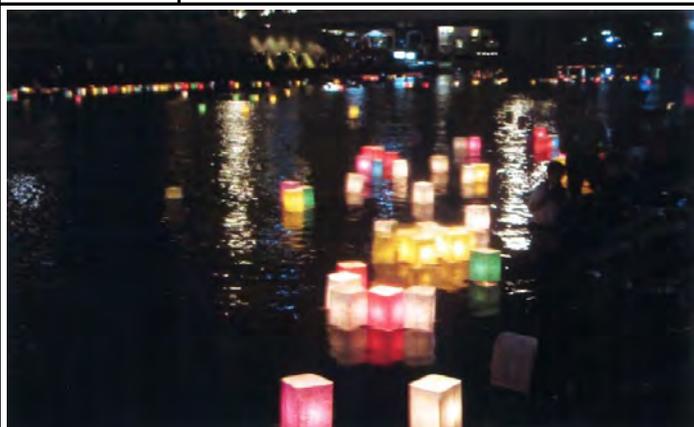
感じたこと、伝えたいこと

8月6日のことを決して忘れてはいけません。世界からも忘れられないためには、今活動していき、さらに世界に広めて、次の世代に受け継いでいくことが大切です。袋町小学校平和資料館へ行って、改めて戦争はあってはいけないものだと感じました。

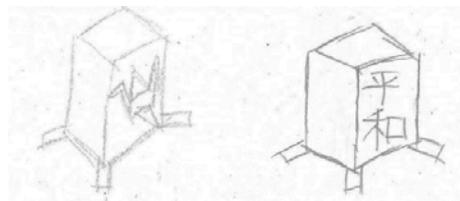
広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成: 城北中学校 2年 松井 彪

場 所	灯ろう流し 広島平和記念公園 元安川
訪 問 日	令和元年8月6日(火曜日) 午後6時30分～7時45分
事前に調べたこと	戦後、原爆で命を落とした人々の遺族らの手作りで始まったことが由来です。どのような人たちが、どのような思いで灯ろうを流しているのかを感じてきたいと思います。



灯ろうには、様々な人々の思いが込められていました。絵で平和を表している人もいれば、言葉で表している人もいました。

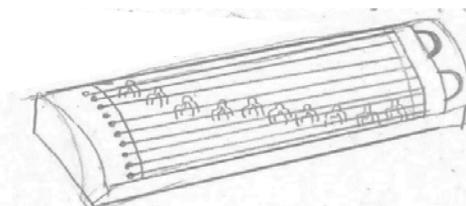


原爆ドームをバックにしたの灯ろうは、とてもきれいで、色々な色の光やスポットライトがあり、とても幻想的な雰囲気でした。

⇐元安橋から見た様子
左下の方から灯ろうを流します



灯ろう流しとともに、その場の雰囲気にあった音楽が流れていました。洋風の楽器から箏(琴)などの和楽器まで様々な演奏が奏でられていました。



感じたこと、伝えたいこと

広島市民の多くの人たちがボランティアとして協力していたことから、「多くの人たちが平和を願っているんだな」と感じました。また、多くの外国の人たちも参加していたことから、世界中で平和を願っている人がたくさんいると感じました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成:事務局

場 所	厳島神社 厳島(宮島)
訪 問 日	令和元年8月7日(水曜日) 午前9時30分～10時30分
研修内容	<p>宮島 厳島神社は、1996年に「原爆ドーム」とともに世界文化遺産に登録されました。平安時代の寝殿造りの様式を取り入れた景観を現在まで継承していることなどが登録の理由とされています。</p> <p>このような歴史的価値がある観光施設のある華やかな宮島も、かつて、「陸軍 広島湾要塞」という湾内に侵入した敵艦船を撃滅させる強力な火網を形成する砲台がありました。砲台は、「鷹ノ巣砲台」と「室浜砲台」の2か所がありました。また、「包ヶ浦弾薬本庫」という宮島地区で砲台に使用する砲弾類を一元管理する施設がありました。これらの施設は、現在も一部の遺構が現存しています。</p> <p>この派遣事業の中で、その地を訪れることはできません(山中にあるため)が、現在は、国内外から多くの観光客が訪れる宮島のその影に、戦争遺跡があることを知っていただきたいと思います。</p>



厳島神社 大鳥居

厳島神社の現在の大鳥居は、建立から140年を経過し、劣化が著しいことから、約70年ぶりの大規模修繕中。その全容を見ることができませんでした。

しかし、逆に70年に一度しか見るこのできない光景を見ることができました。

神社の前で

厳島神社は、本殿や社殿群などを回廊で結んだ海上社殿です。社殿の中には、学問の神「菅原道真」公が祀られた「天神社」があり、3年生はそれぞれの思いを持ち、参拝していました。



参拝時は干潮だったので、海の中から撮影

感じたこと、伝えたいこと

神社のある厳島にも、様々な戦争の影響があったことを知っていただきたいと思います。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成:事務局

場 所	各学校での報告会 城北中学校、雄志中学校、直江津東中学校、安塚中学校
実 施 日	令和元年8月末～
実施内容	派遣校において、全校集会や学校だよりなどにより、派遣生徒による報告が行われました。 自分が見てきたこと、そして感じたことなどを自分の言葉で学校の仲間に伝えました。



城北中学校 1月22日 全校集会



雄志中学校 9月24日 全校集会



直江津東中学校
8月28日 始業式



安塚中学校 9月5日 全校集会

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成:事務局

場 所	各学校での報告会 牧中学校、頸城中学校、板倉中学校、名立中学校
実施日	令和元年8月末～
実施内容	派遣校において、全校集会や学校だよりなどにより、派遣生徒による報告が行われました。 自分が見てきたこと、そして感じたことなどを自分の言葉で学校の仲間に伝えました。



牧中学校 8月27日 始業式



頸城中学校 9月25日 全校集会



板倉中学校 9月20日 全校集会



名立中学校 9月24日 全校集会

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成:事務局

内 容	学び愛フェスタでの報告会
実施日	令和元年11月16日(土曜日) 午後2時30分～3時
場 所	高田公園オーレンプラザ ホール (上越市教育コラボ2019 学び愛フェスタ会場)



感じたこと、伝えたいこと

上越市の代表として参加した生徒たちが、自らの言葉で自分たちが、目や耳、心で感じたことを発表しました。生徒たちの思いが、多くの人々に届き、平和の輪が広がることを願います。

非核平和友好都市宣言

私たちの上越市は、美しい自然のなかに歴史や文化の息づく、薫り高いまちです。この郷土を大切に守り、生きがいのある豊かな社会を築いていくことが、今の私たち市民に課せられた使命だと思えます。

私たちは、これを根底からゆるがし、人類の平和と地球環境を脅かす核兵器の使用・実験は容認できません。世界唯一の被爆国の国民として、すべての国のあらゆる核兵器がすみやかに廃絶され、恒久平和が確立されることを強く願うものです。

そのためにも私たちは、この上越市から姉妹都市や国際交流の輪を広げ、世界の人々と友好のきずなを強めながら、互いの繁栄を図っていきます。

私たちの上越市は、戦後50年の節目にあたり、平和を求める決意を新たにし、ここに「非核平和友好都市」とすることを宣言します。

平成7年12月20日

上越市